

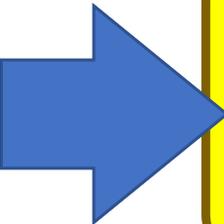
次期環境基本計画策定の論点について

論点

- ① **ビジョンとアクション**（時間軸）
- ② **空間的な多様性**（域内の環境要素）
- ③ **人や活動の多様性**（域内の人・活動）
- ④ **外部とのつながり**（空間の広がり・つながり）
- ⑤ **進行管理**

審議会でのご意見など

- 計画の長期的目標のターゲットは2050年。
（個別計画の目指すべき姿のターゲットも同じく2050年）
- 少子高齢化など社会の変化に対応。環境への取組で社会課題の解決も。
- 右肩上がりでない定常社会の下、心や文化を大切にすることを見直す。
- 古典的課題（公害など）から新しい課題（適応策など）までを包括した環境配慮。
- 大学生などの若い世代が自分たちで動ける環境・しくみ。
- 新しい時代の環境を盛り上げていく考えで行くと、計画年次が2030年というのは少し早いのでは。



「2050年の姿（環境・社会・人）」をイメージした上で、
「その達成に向けた大きな方向性」
「そのために今から始める（変わる）こと」を考える。

（関連する主な計画要素） 「長期的目標」 「施策大綱」 「計画期間」 など

審議会でのご意見など

- 生物多様性や地球温暖化対策（緩和策・吸収源・適応策）や経済面などの多様な価値に着目。「ゾーニング」して特長を活かして伸ばしていく。すべての要素で100点を取る必要はない。
- 人的資源の多様性との重ね合わせも必要。
- 雨庭など多面的価値を持つ京都ならではの Nature-based Solution
- すべてにおいて必要な環境配慮も「レイヤリング」として必要。

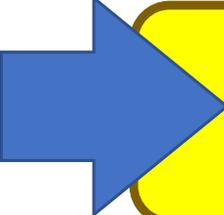
環境要素(脱炭素・生物多様性・環境学習…)間の相克・相乗※を、土地利用の種類(森林・農地・公園・水辺…)ごとに整理し、その望ましいあり方について検討する。

※例えば、森林であれば吸収源としては針葉樹林のほうが効率が良く、木材生産にも資するが、生物多様性の観点では、他の樹種構成による森林が望まれる、ハイキングなどには樹冠の空いた広葉樹が好まれる…といったことを想定。

(関連する主な計画要素) 「(地域特性別) 配慮指針」など

審議会でのご意見など

- 京都環境賞に見られる画期的な取組。こどもから高齢者まで、海外からの留学生も含む人的資源の分厚さ。
- 若い世代がもっと自分で動ける環境・仕組みづくり。
- 何に取り組むか迷う地域の後押しとして交流機会の創出、活動の支援。環境学習の推進。市民一丸となれるスローガンもあるとよい。



**画期的な取組を生み出す人や活動の「多様性」を意識し、
「多様性」を活かした※取組の方策を考える。**

※「多様性」は、他者の様々な価値（経済的・社会的価値）を生み出したり、見出したりしていくことにもつながる。

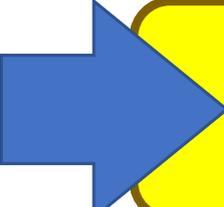
※「多様性」は複雑で難しい。複雑なものを理解していただくことと、「わかりやすくする」ことのバランスをとることが必要（⇒「環境教育・学習」）。

※こういった「多様性」時代の個人の選択による行動促進や、環境活動の活性化を考える。

（関連する主な計画要素） 「ひと・しくみづくり」「（主体別）配慮指針」など

審議会でのご意見など

- オーバーツーリズムで否定的に捉えられるが、京都に来訪する滞在者と共に、環境が作り出す京都の魅力を一緒に見出し、高める。
- 人口の1割が大学生。海外からの留学生もいる。
- CSVやバリューチェーンを意識して環境対応する企業や、環境に取り組むベンチャーを応援する機運の醸成。市民意識を把握して進行管理。



空間の広がりや人と活動のつながりを意識し、域内外における影響を踏まえて、施策を考える。

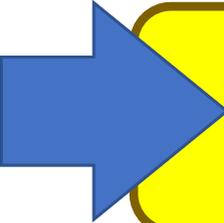
※人・活動のつながりは、他者が認識する価値（経済的・社会的価値）を共有することで、価値が広がることを想定。多様性とも関連。

※企業は温暖化でのScope3などバリューチェーンでの環境影響も視野に入れて取り組んでいる。また、エコラベル商品の購入は市域外の環境改善への寄与のための行動である。そうした域外に環境影響を及ぼす取組を推進する意味について考慮が必要。

（関連する主な計画要素） 「施策の大綱」 など

審議会でのご意見など

- 主観的指標による進行管理を評価。ウェルビーイングにつなげていく。



①～④の論点での検討も踏まえ、
主観的指標による進行管理を改良していく。

（関連する主な計画要素）「主観的指標」「進行管理」など

策定プロセス：市民意見聴取

審議会でのご意見など

- 様々な人の考えを取り込む計画策定（滞在者・学生も含めたWS等）

※その他、想定する取組例

- 大学生を中心に京都の環境のいいところ・取組などを広く聴取(興味深いものを映像化)
- 環境活動団体に上記の論点について意見聴取
- 市民・事業者アンケートの実施
- 既存事業に関連した意見聴取(エコ修学旅行・美化パスポート事業など)
- それまでの意見を踏まえた市民ワークショップ(来年度を想定)

従来の、省エネなどの日常的な行動を中心とした「環境配慮指針」にとどまらない行動について、以下のような既存事業の取組も参考にして検討する。

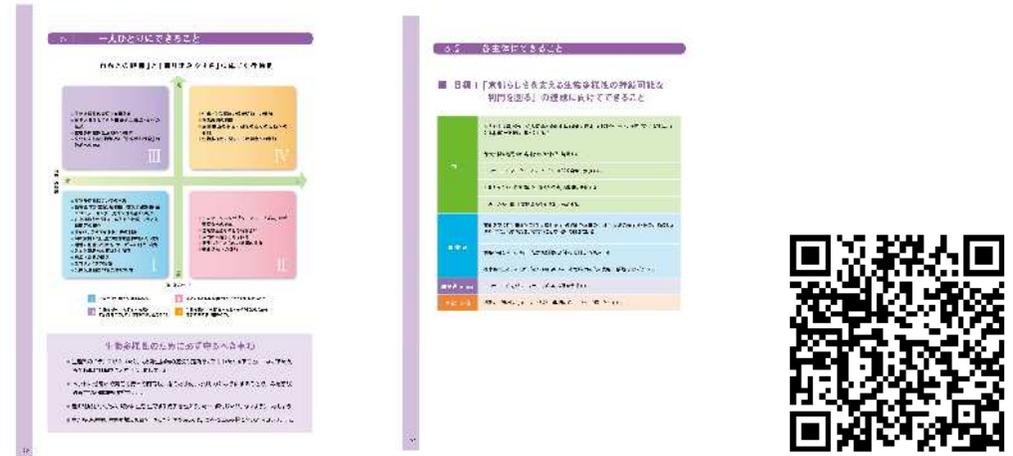
2050magazineのアクションリスト

脱炭素ライフスタイル推進事業の公式ホームページ「2050 MAGAZINE」で見える化される、ライフスタイルにおいて実践する脱炭素行動によるCO₂削減効果や、参加可能な取組等



生物多様性プランの「私たちにできること」

同プランの4つの目標の達成に向けて示される、「自然との距離」や「取り組みやすさ」に応じた「一人ひとりにできること」と行動例



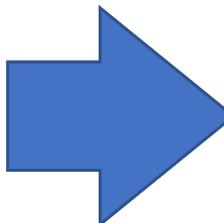
能動的行動を導けるよう「体験」といった環境学習に近い要素を組み込むことや、「食」など分野横断行動が期待される場面などを取り上げた、幅広く環境に対して自らの選択で積極的に関わっていくことに資する内容を目指す

「空間的な多様性」の観点を踏まえた対応としては、以下のような開発事業に対する土地の種類別の環境配慮の指針を参考にしつつ、開発等による改変だけでなく、当該空間が本来果たす機能を明確化するものを模索する。

地域特性別環境配慮事項（福岡市環境配慮指針）

事業の実施による環境影響について、事前に事業者自身で判断いただけるよう、地域の環境情報を提供し、「構想」「計画」「施工」「供用」の事業の各段階で実施すべき配慮事項を示したもの。市街住宅地域や里地里山などの地域特性及び、住宅整備事業や発電所設置事業などの事業特性を確認し、事業の段階にあわせた環境配慮を検討する。

このうち、「地域特性別環境配慮事項」では、地域特性区分毎に、地域を特徴づける環境要素の状況、事業の実施に伴いチェックすべき事項を示しています。



この考え方を援用し、地域特性別にその環境が果たす機能を、生物多様性・脱炭素・資源循環・環境学習などの観点から整理し、その望ましいあり方を検討する。